

中学校・高等学校における被服製作教育について

——生徒と教師の意識を中心として——

伊 藤 徳 子

この研究は、被服製作指導のよりよいあり方を目ざして、中学生、高校生および中学校、高等学校家庭科担当者を対象に、アンケート調査を行い、生徒と教師の意識の流れをみたものである。おもな内容は、基礎的技能の習熟や時期、被服製作意欲、被服製作学習についての満足度、製作学習による実践的態度、製作学習の理解度、中学・高校における被服製作学習の重複、および中学教師、高校教師の被服製作指導内容の関心度などである。

I 調査研究の目的

家庭科は従来から、実践的、体験的な学習を中心に行ってきたわけであるが、今回改訂された学習指導要領では、小・中・高校を通じて、この実践的、体験的学習がなお一層重視されている。

社会的には、衣料の多様化とともに既製服が発達し、家庭で縫製することが少なくなっている。生徒も糸と針を使って作るという経験が乏しくなっているのが現状である。そのため生徒の被服製作に関する技能が年々低下してきて、教師側からは製作指導の困難さが問題とされ、生徒側では、製作のつまづきが製作実習嫌いを起していると考えられる。そこで中学3年生と「家庭一般」履習中の高校1、2年生、および中学・高校家庭科担当教師を対象に、被服教育における被服製作の問題を取り上げ、アンケート調査を行った。

被服製作学習についてどの程度理解され、どんな所に問題点があるのか、その実態を調査することにより、中学、高校における被服製作指導をより円滑な、しかも価値あるものにするための資料とするものである。

II 調査の概要

1. 調査事項

被服製作教育について必要と思われる次の8項目について行った。

- (1) 基礎的技能について
- (2) 被服製作学習について
- (3) 被服製作意欲について
- (4) 被服製作の技術面について
- (5) 被服製作学習について、生徒が教師に望むこと
- (6) 中学校と高等学校における被服製作学習の重複について
- (7) 中学、高校教師の被服製作指導内容に対する関心度について
- (8) 中学教師から高校教師へおよび高校教師から中学教師へ望むこと

2. 調査方法

この調査は、すべて質問紙法を用いた。調査項目は、生徒用、教師用ともほぼ同じ内容であるが若干の違いがあるのでそれぞれ用意した。生徒は授業時間中に、教師は自由時間に行った。

3. 調査期間

昭和56年1月～3月に実施した。

4. 調査対象

生徒は中学3年女子500名と高校1.2年「家庭一般」履習中の500名計1,000名である。教師は中学技術・家庭科担当者100名、高校家庭科担当者100名計200名である。

中学生は地域差があまりないということと回収に便利であることから新潟市内の6ヶ校とした。

高校生は、当教育センターで行っている高校家庭科定期研修に参加している教師の学校6ヶ校とした。

中学校教師は上、中、下越の3地域に分け、各地区教育事務所から依頼していただいた。高校教師は、全県家庭科担当者会議の機会に依頼した。

回収率は中学生89%、高校生86%、中学教師75%、高校教師76%である。

<対象者内訳>

① 生徒 中学生 3年生 443名

高校生 1年生 222名、2年生 210名、計 432名

② 教師 技術・家庭科、家庭科担当経験年数、年齢、自校の家庭科担当教諭人数、勤務所在地は次の通りである。

家庭科担当経験年数（S56、3、31現在）

人（%）

| 校種 \ 年数 | 5年未満 | 5～10年未満 | 10～20年未満 | 20年以上 | 無 答 |
|---------|---------|----------|-----------|-----------|---------|
| 中 学 教 師 | 6 (8.0) | 8 (10.7) | 13 (17.3) | 47 (62.7) | 1 (1.3) |
| 高 校 教 師 | 5 (6.6) | 8 (10.5) | 39 (51.3) | 24 (31.6) | 0 |

年 令（S56、3、31現在）

人（%）

| 校種 \ 年代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 |
|---------|---------|-----------|-----------|-----------|---------|
| 中 学 教 師 | 5 (6.7) | 8 (10.7) | 40 (53.3) | 21 (28.0) | 1 (1.3) |
| 高 校 教 師 | 7 (9.2) | 35 (46.1) | 22 (28.9) | 12 (15.8) | 0 |

家庭科担当教諭人数

人（%）

| 校種 \ 人数 | 1 人 | 2 人 | 3～5人 | 6人以上 | 無 答 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|
| 中 学 教 師 | 25 (33.3) | 39 (52.0) | 10 (13.3) | 0 | 1 (1.4) |
| 高 校 教 師 | 11 (14.5) | 8 (10.5) | 29 (38.2) | 26 (34.2) | 2 (2.6) |

勤務所在地

人（%）

| 校種 \ 地域 | 上 越 | 中 越 | 下 越 | 無 答 |
|---------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 中 学 教 師 | 5 (6.7) | 21 (28.0) | 42 (56.0) | 7 (9.3) |
| 高 校 教 師 | 10 (13.2) | 29 (38.2) | 28 (36.8) | 9 (11.8) |

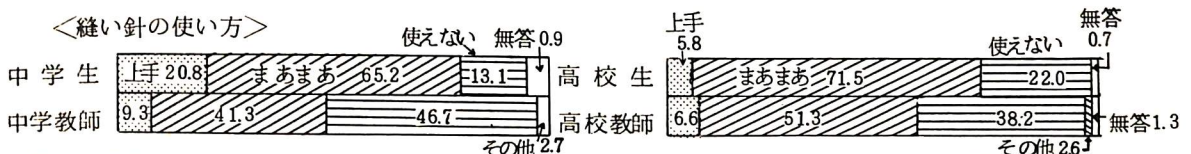
Ⅲ 調査結果と考察

設問文は生徒用のものであるが教師に対する設問および回答は生徒とちがうものについて（ ）内
示した。表図中の数字はすべて％である。なお調査用紙は巻末に載せる。

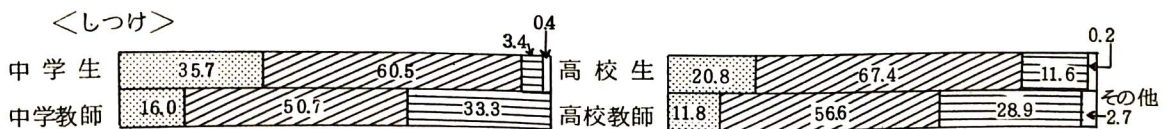
1. 基礎的技能について

(1) 手縫い

- ① あなたは 縫い針がらくに上手に使えましたか（使えたと思いますか）
 ② あなたは しつけをらくに上手にすることができましたか（できたでしょうか）
 ③ あなたは ボタンつけや穴かがりが上手にできましたか（できたでしょうか）
1. 上手に使えた（80％以上の生徒が上手に使えたと思う） 2. まあまあである（40～60
 程度程度の生徒が上手に使えた） 3. 上手に使えなかった（上手に使えたのは40％以下である）
 4. その他



縫い針の使い方では、中学生の方が「上手に使えた」と思っている生徒が多く、教師も高校より、中
 学教師の方がわずかに高く評価している。「上手に使えなかった」は、中学生13％で高校生22％
 とかなり多く、教師は生徒より更に多く40％前後である。縫製においても基礎となる針の使い
 方は、かなり悪い結果である。



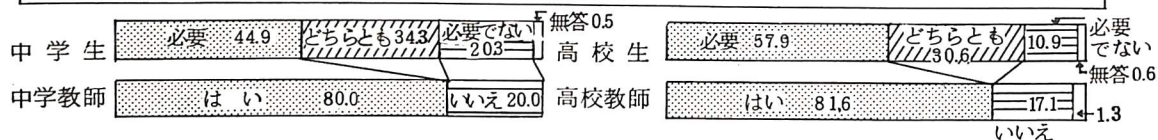
しつけのかけ方は、教師より生徒が「上手に使えた」と答えている。高校生より中学生が「できる」と
 回答している。教師の目はきびしく「上手に使えなかった」は、中学教師33％、高校教師29％と多い。



ボタンつけ、穴かがりは「上手に使えた」と「まあまあである」を合わせると、生徒、教師ともに
 50％を超える。これも生徒より教師の方がきびしく評価しており、また中学教師より高校教師の方が
 「上手に使えなかった」が高い割合である。上記の針の使い方、しつけのかけ方、ボタンつけ、穴か
 がり等は、習得したものとして学習を進めているが、生徒の習熟の程度には相当の個人差が見られること
 が伺える。

④ あなたは 中学校3年生〔高校〕で手縫い〔縫い針の使い方、しつけのかけ方、まつり縫いなど〕の練習が必要だと思いますか（練習をさせる必要がありましたか）

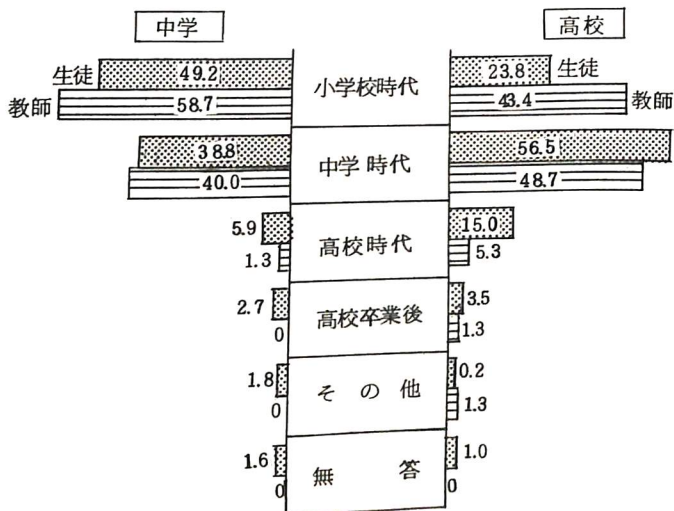
1. 必要である（はい） 2. どちらともいえない 3. 必要でない（いいえ）



既習の手縫いの定着があまりよくないので「練習の必要があると思うか」を聞いてみると、中学生45%、高校生58%と半分位の生徒が「必要である」と答えている。教師には「練習をさせる必要があったか」を聞いてみると中学・高校教師ともに80%の高率で「必要である」と答えている。ではその手縫いの基礎を習熟させる時期はいつ頃がよいと思うかについての設問が次の⑤である。

⑤ もし手縫いの基礎の習熟の時期を重点的に決めるとするならば、あなたは、いつ頃が適当だと思いますか

1. 小学校時代 2. 中学校時代 3. 高校時代 4. 高校卒業後 5. その他

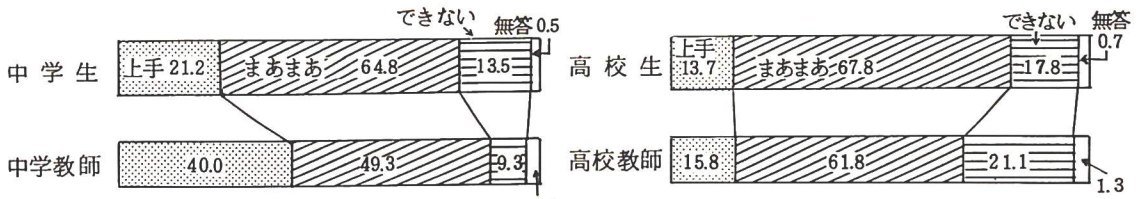


手縫いの基礎習熟時期としては、中学校の生徒、教師ともに「小学校時代」が50%を超えて多い。高校では生徒、教師ともに「中学校時代」が50%を超え「小学校時代」は少なくなっている。中学・高校ともに現段階より早い時期に習熟させたらよいと考えていることになる。

(2) ミシン縫い

① あなたは、ミシンで直線縫いや曲線縫いが上手にできましたか（できたでしょうか）

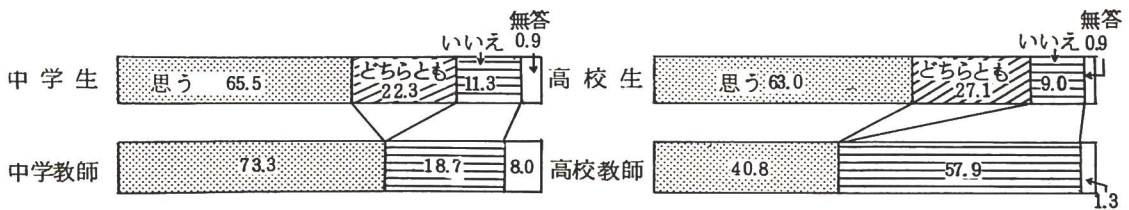
1. 上手にできた（80%以上の生徒がよくできた） 2. まあまあである（40～60%程度の生徒がよくできた） 3. 上手にできなかった（よくできたのは40%以下である）



ミシンで直線縫いや曲線縫いが「上手にできた」は、中学が生徒・教師ともに高校より高い。中学教師は生徒の自己評価より約2倍高く評価している。中学生と中学教師のずれが大きい。中学生、高校生とも「上手にできなかった」は14～18%もある。生徒は普通にできていると思っているが実際は思うほどにはできないのである。

② あなたは、中学校〔高校〕でミシン縫いの基礎技術〔直線、曲線縫いなど〕をしっかりと身につけなければならないと思いますか（練習をさせましたか）

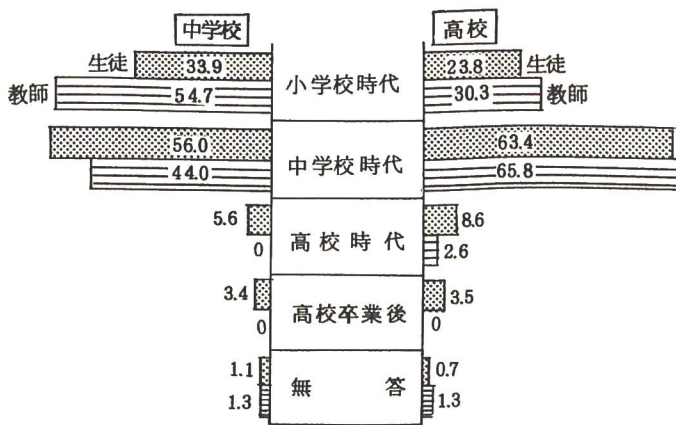
1. 思う（はい）
2. どちらともいえない
3. 思わない（いいえ）



「中学・高校でミシン縫いの基礎技術を身につけなければならないか」では「思う」が中学生66% 中学教師73%、高校生63%と多いが高校教師は41%と少く、「いいえ」が半数を超える。高校教師は、既習済みとして授業を進めがちであるが、生徒の実態をよく把握して進める必要を感じる。

③ ミシン縫いの基礎を練習する時期としては、いつ頃がよいと思いますか

1. 小学校時代
2. 中学校時代
3. 高校時代
4. 高校卒業後



ミシンの基礎練習の時期としては、生徒 教師ともに「中学校時代」が多い。中学教師が「小学校時代」に55%とかなり多い。教師としては中学時代までに基礎的事項として身につけてもらいたいと考えるわけである。

(3) 基礎縫いの習熟時期と習得方法

① あなたはミシン縫いや、手縫いの基礎が身についたのはいつ頃だと思いますか

生徒用 1. 小学校時代家庭で 2. 小学校の授業で 3. 中学校一年生 4. 中学校二年頃 5. 中学校三年になってから 6. 高校に入ってから 7. わからない 8. まだ身につけていないと思う

教師用 1. 小学校時代家庭で 2. 小学校の授業で 3. 中学校時代家庭で 4. 中学校の授業で 5. 高校時代 6. 高校卒業後 7. 女学校・専門学校時代

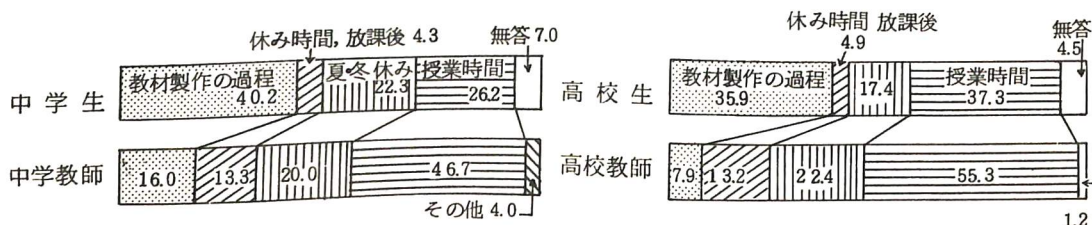
| 対象 | 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 無答 |
|------|----|------|------|------|------|-----|------|------|-----|-----|
| 中学生 | | 16.5 | 19.9 | 24.2 | 16.3 | 3.8 | 0.9 | 9.3 | 8.6 | 0.5 |
| 高校生 | | 8.8 | 15.3 | 14.8 | 11.6 | 7.9 | 13.7 | 18.3 | 8.6 | 1.0 |
| 中学教師 | | 13.3 | 26.7 | 17.3 | 14.7 | 9.3 | 6.7 | 10.7 | — | 1.3 |
| 高校教師 | | 18.4 | 18.4 | 21.1 | 14.5 | 3.9 | 14.5 | 9.2 | — | 0 |

ミシンや手縫いの基礎が身についたのは、生徒達は「中学一年頃」がもっとも多く、次いで「小学校の授業」である。

教師は「小学校の授業」が多く、次いで「中学校時代家庭」である。教師の方が生徒より早い時期に身につけたとみていることになる。

② あなたは、ミシン縫いや手縫いの基礎技術をどんな方法で習得していったら良いと思いますか

1. 学校の教材製作の過程で練習できるので特に時間をとって練習する必要はない
2. 目標を決めて休み時間や放課後自由に練習するとよい
3. 目標を決めて夏休みや冬休みの宿題として練習するとよい
4. 授業時間内に特別に時間をとって練習するとよい



ミシンや手縫いの基礎技術の習得方法は、生徒は「学校の教材製作の過程で練習できるので特に時間をとって練習する必要はない」が40%前後でもっとも多い。次いで「授業時間内に特別に時間をとって練習させるとよい」をあげている。教師の一番多いのは「授業時間内に特別に時間をとって練習させるとよい」であり、時間内でやる方が徹底をはかれると考えている。次いで「目標を決めて夏休みや冬休みの宿題として練習させるとよい」である。教師の「学校の教材製作の過程で練習できるので特に時間をとって練習させる必要はない」は、生徒に比べると少なくなっていることが伺える。

2. 被服製作学習について

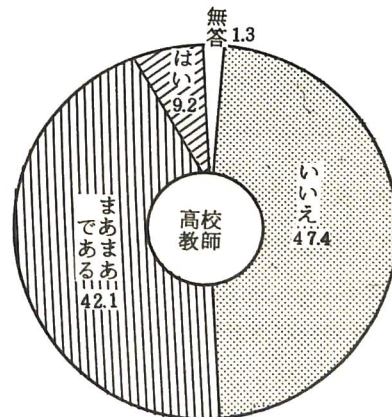
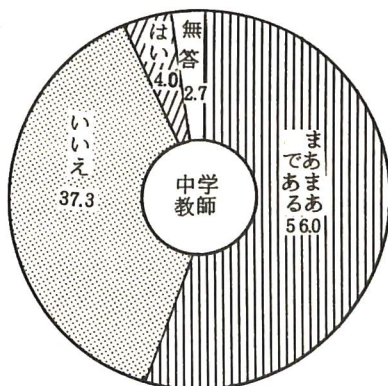
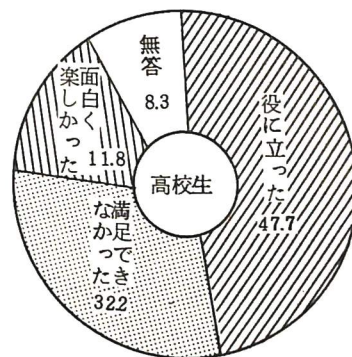
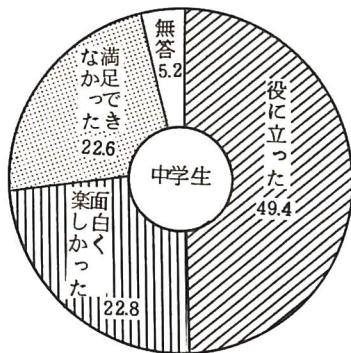
(1) 被服製作についての満足度

生徒用 被服製作学習に満足しましたか

1. 面白く楽しかった 2. 役に立って良かった 3. 満足できなかった

教師用

1. はい 2. まあまあである 3. いいえ



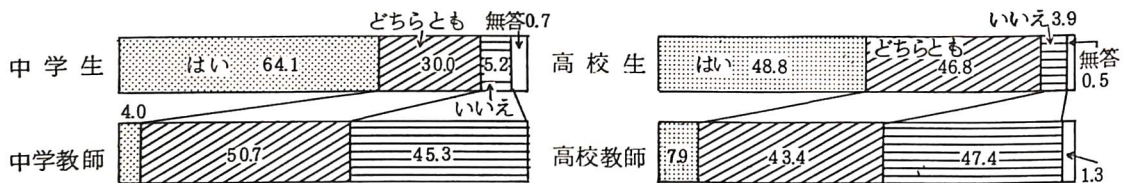
生徒が「被服製作学習をどの程度満足しているか」をみると「役に立ってよかった」と「面白く楽しかった」を合わせると中学生 72%, 高校生 60%と多くの生徒が満足している。「満足できなかった」は中学生より高校生が少し多い。それは製作品について、高校生の欲求度が高く、技術がそれにともなわないからと考えられる。

教師は、生徒に比べ「まあまあである」が多く、中学教師 56%, 高校教師 42%である。「いいえ」は中学校教師 37%, 高校教師 47%とかなり高く、高校教師の不満が多い。

(2) 被服製作学習によって身についた技能 実践的態度

① ミシンのかけ方、直線・曲線の縫い方、手縫いの技法など、縫い方の基本を身につけることができましたか（定着したと思いますか）

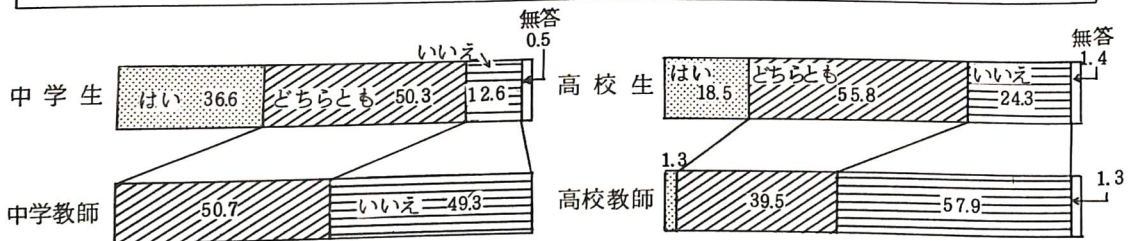
1. はい 2. どちらともいえない（まあまあである） 3. いいえ



「縫い方の基本が身についたか」では、生徒の「はい」が多いのに対して教師の「はい」はわずかである。生徒と教師の意識のずれがもっとも大きい。反復練習を必要とする基礎技能は、学校において確実におさえることが望まれる。高校では、全国家庭科技術検定を受験させることによって、技術の定着をはかるのも一つの方法である。

② 被服材料の性質、からだにあった型紙の選び方、目的にあったデザイン、早く丈夫に仕上げる工夫など、理論に基づいた製作の方法がわかりましたか（定着したと思いますか）

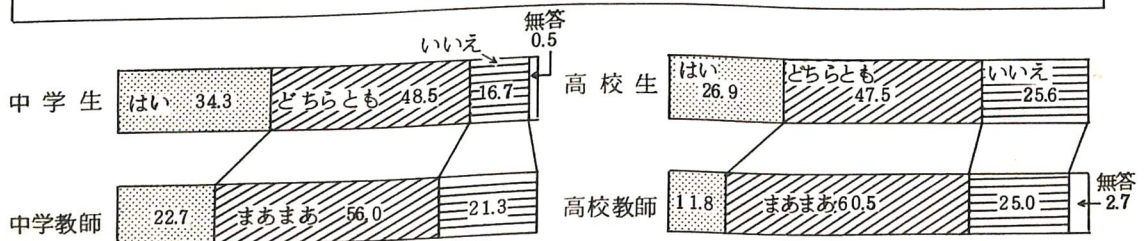
1. はい 2. どちらともいえない（まあまあである） 3. いいえ



「理論に基づいた製作方法がわかったか」では教師の「はい」がほとんどないのに対し、中学生 37%と多く、高校生も 19%である。教師の「いいえ」は 50%を超え、定着率は低いと評価されている。

③ 一定の時間内で考察したり、製作したりする実践力や完成のために努力する精神力が身につきましたか（養うことができたと思いますか）

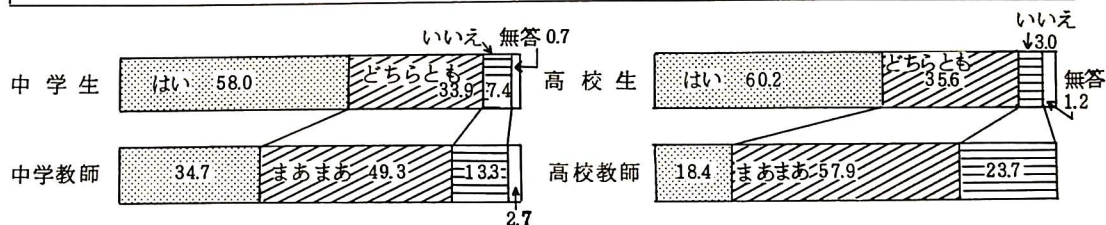
1. はい 2. どちらともいえない（まあまあである） 3. いいえ



一定の時間内で考案したり、製作したり、完成のために努力する精神力は、「どちらともいえない」が最も多く、「はい」は教師より生徒が多い。

④ 集団の中で実習することから、協力しあう心や他人から学ぶ気持ち、自己を反省する気持ちが身につきましたか（身につけさせることができたと思いますか）

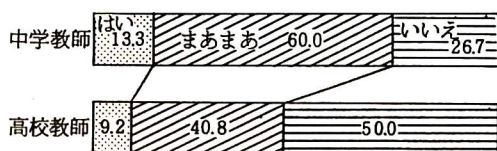
1 はい 2 どちらともいえない（まあまあである） 3 いいえ



「集団で実習することから、協力心や他人から学ぶ気持ち、反省心がついたか」では、中学生、高校生ともに60%「はい」と答えており、学習効果を高く評価しているのに比べ、教師の「はい」は中学35%、高校18%と低い。

教師用 創意工夫、応用発展力を養成することができたと思いますか。

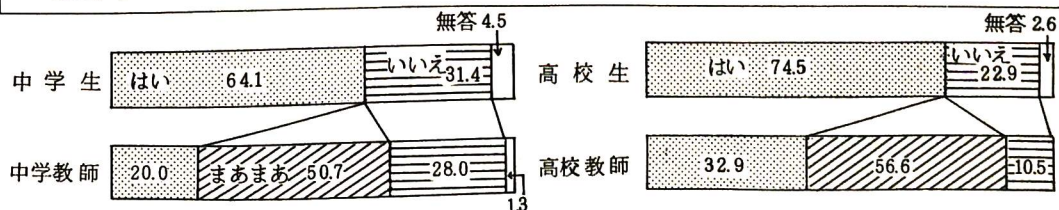
1 はい 2 まあまあである 3 いいえ



創意工夫、応用発展力の養成では、中学教師は「まあまあである」60%と多いが、高校教師41%とあまり多くない。高校教師の「いいえ」が50%と多く、中学教師の2倍である。

(3) 被服製作学習における理解力

① 先生の説明や指導で理解できない部分がありましたか（理解してくれない部分があって困りましたか） 1 はい (2 まあまあである) 3 いいえ



説明や指導で理解できない部分は中学生64%、高校生75%が「はい」と高い割合である。教師は「まあまあ」が多く50%台である。「はい」が中学教師20%、高校教師32%と少なく、生徒は教師が考えている程には理解していないことを認識したい。

② 先生の説明や指導で一番理解できない部分はどこでしたか（指導に一番苦労したのはどこでしたか）

③ あなたは製作にあたって、一番失敗したと思ったところはどこですか（一番失敗したと感じているのはどこだと推定されますか）

- 1 材料の選択 2 デザインの決定 3 型紙の補正 4 裁断 5 縫製
6 その他

説明や指導で理解できなかった部分

| 回答 対象 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 無答 |
|----------|-----|------|------|------|------|------|-----|
| 中学生 | 3.4 | 4.1 | 13.8 | 5.2 | 49.2 | 16.0 | 8.3 |
| 高校生 | 2.8 | 1.9 | 18.1 | 2.3 | 54.9 | 14.4 | 5.6 |
| 中学教師 | 0 | 12.0 | 9.3 | 14.7 | 56.0 | 5.3 | 2.7 |
| 高校教師 | 1.3 | 3.9 | 11.8 | 14.5 | 65.8 | 1.3 | 1.4 |

説明や指導でもっとも理解できなかった部分をみると、生徒・教師ともに「縫製」が50%以上で圧倒的に多い。次いで生徒は「型紙の補正」であるが、教師は「裁断」である。生徒の「裁断」は少なく教師との差が大きい。

製作に当たって、一番失敗したところは、生徒・教師ともに「縫製」であり、理解できないところと一致している。

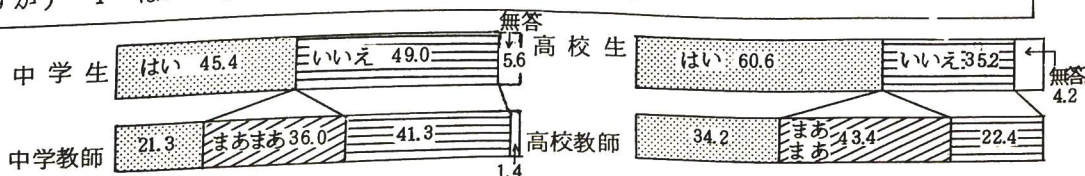
製作で失敗したところ

| 回答 対象 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 無答 |
|----------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 中学生 | 10.2 | 14.9 | 8.6 | 11.5 | 39.7 | 11.3 | 3.8 |
| 高校生 | 7.4 | 12.3 | 10.0 | 10.0 | 45.8 | 11.6 | 2.9 |
| 中学教師 | 6.7 | 13.3 | 6.7 | 5.3 | 58.7 | 6.7 | 2.6 |
| 高校教師 | 11.8 | 6.6 | 3.9 | 13.2 | 60.5 | 2.6 | 1.4 |

次いで生徒は「デザインの決定」「裁断」の順である。上手に作り上げるためには、縫製におけるきめ細かな指導法の工夫が望まれる。

(4) 被服製作学習の進め方

① 授業の進み方が早くて、ついていくのが大変でしたか（早かったのではないかと推察されますか） 1 はい （2 まあまあである） 3 いいえ



授業の進み方では、中学生は「はい」「いいえ」が半々位であるが、高校生の「はい」が61%と多い。高校では、高度な製作物を取り扱うことが多い事からの結果とも考えられる。教師の「はい」は少なく、生徒との差が大きい。教師は「いいえ」が中学41%と多く、高校22%と少し低くなって

いる。教師が限られた時間で教材を消化しようとする“授業進度の速さ”は、生徒にとっては教師の推察する倍の速さであると感じていると考えてよい。

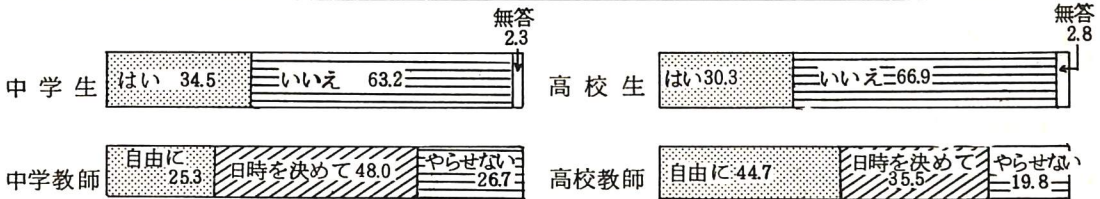
生徒用 提出期限がせまって、苦しい時がありましたか 1. はい 2. いいえ



「提出期限がせまって苦しい時があった」は、中学生73%,高校生82%の高率である。被服製作は長時間を要するので製作途中でのチェックが出来るように学習進度表などの工夫も必要なのではないだろうか。

生徒用 授業時間外にもっと学校でやりたいと思いましたが 1. はい 2. いいえ
教師用 授業時間外でもやらせましたか

1. いつでも自由に 2. 日時を決めて 3. ほとんどやらせない



授業時間外に学校ではやりたくないと思う多くの生徒は思っている。これは中学、高校生とも同じ傾向である。教師に「授業時間外に学校でやらせたか」の問いに対し、中学教師は「日時を決めて」が48%で半数あり、高校では「いつでも自由に」が45%でもっとも多い。

生徒用 授業のとき先生が2人位ついてほしいと思いましたが 1. はい 2. いいえ

| 回答 | 1 | 2 | 無答 |
|-----|------|------|-----|
| 中学生 | 32.5 | 65.0 | 2.5 |
| 高校生 | 45.4 | 51.9 | 2.7 |

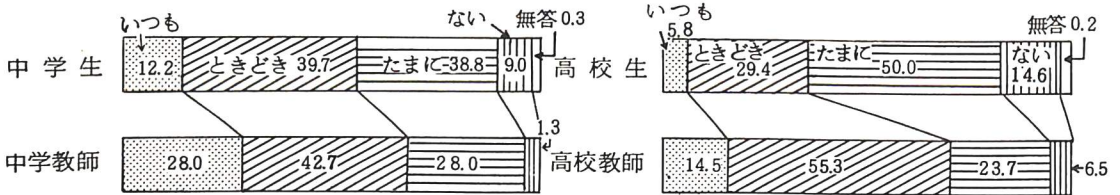
1人の先生では限られた時間内で個別指導できる生徒の数には限度があるため2人の先生についてほしいかを問うたのであるが「いいえ」が多く、中学生65%,高校生52%である。中学生はこれまでの授業のように1人でよいと考えている生徒が多い。高校生は「はい」が45

%で、かなりの生徒が2人の教師を望んでいることがわかる。

(5) 教材用具、備品について

① 授業中、ミシンの調整をしているうちに時間がたりなくなって困ったことがありますか（困っている生徒を見ることがありますか）

1. いつも 2. ときどき 3. たまに 4. 困ったことはない（見かけることはない）

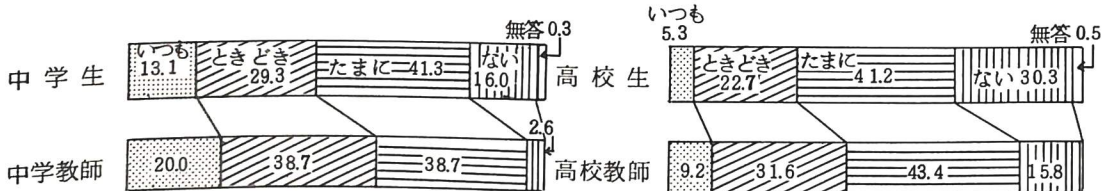


ミシンの調整をしているうちに時間がたりなくなることが「ときどき」と「たまに」を合わせると中学生、高校生ともに79%と高い。教師も同じ傾向である。「いつも」は生徒より教師の割合が多い。

ミシン調整のできない生徒が多いので、これを基礎事項として学習させておく必要があると考えられる。

② 学校の用具や備品が不十分で能率があがらず、困ったことがありますか（困っている生徒を見ることがありますか）

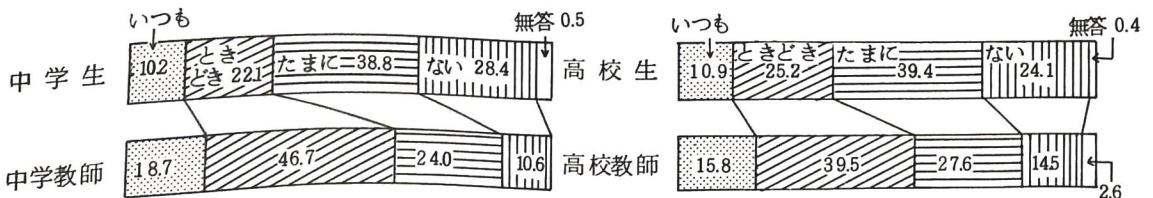
1. いつも 2. ときどき 3. たまに 4. 困ったことはない（見ることはない）



「用具や備品が不十分で能率があがらず困ったか」では生徒、教師ともに「ときどき」と「たまに」を合わせると64%以上である。中学教師は「いつも」が20%である。授業の能率を高めるためにも用具や備品はまだ不十分と言える。

③ ミシンやアイロンかけの順番、先生に見てもらふ順番がこなくて困ったことがありますか（待っている生徒が多く見られますか）

1. いつも 2. ときどき 3. たまに 4. 困ったことはない（見られない）



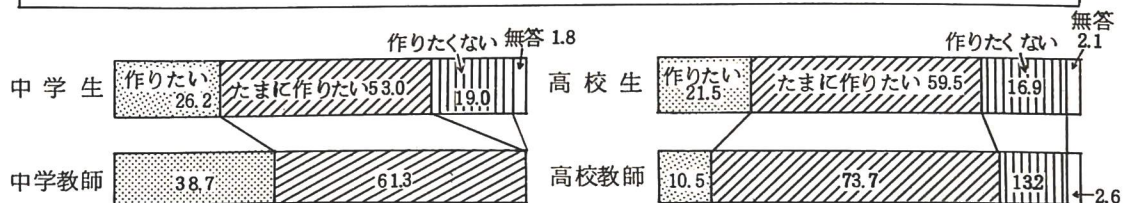
「ミシンやアイロンかけ、先生に見てもらふ順番がこなくて困るか」では「ときどき」と「たまに」を合わせると60%以上である。「いつも」は生徒より教師が多い。

3. 被服製作意欲について

(1) 被服製作意欲

① あなたは学校で作品を製作したことによって、今後自分の衣服や家族の衣服を作りたいと思いますか（作りたいと思っていると推察されますか）

1. いろいろ作りたい（と思っている）
2. たまには作りたい（と思っている）
3. もう作りたくない（と思っている）



「今後自分の衣服や家族の衣服を作りたいか」では、生徒は「いろいろ作りたい」と「たまには作りたい」を合わせると80%の高率である。作りたいという生徒の願いを満足させるために、能力に応じた技術を身につけさせたい。中学教師は、生徒の「いろいろ作りたい」を高く意識しているのに対して、高校教師はその逆である。

② いま自分で何かを作るとすれば〔家で〕、どんな障害がありますか

1. 家のミシンや用具が使いやすくない
2. 技術が下手なので作りたくない
3. 思うような材料もないし、割合に高価になるので作りたくない
4. 時間の余裕がない
5. 被服製作は自分の性格にあわない
6. その他

| 対象 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 無答 |
|------|------|------|------|------|------|-----|-----|
| 中学生 | 9.0 | 11.1 | 11.1 | 54.2 | 12.0 | 1.4 | 1.2 |
| 高校生 | 10.4 | 15.3 | 22.5 | 37.5 | 9.7 | 2.1 | 2.5 |
| 中学教師 | 21.3 | 4.0 | 5.3 | 62.7 | 5.3 | 1.4 | 0 |
| 高校教師 | 18.4 | 42.1 | 1.3 | 26.3 | 7.9 | 2.6 | 1.4 |

家で何かを作るとすると障害になるものは、生徒は「時間の余裕がない」が最も多い。高校生より中学生に多いのはこの調査が高校受験前という時期であったこと

による影響もあると思われる。高校教師は、生徒の「技術が下手なので作りたくない」が障害になっているとするものが一番多い。高校生もやはり「時間の余裕がない」が一番多い。次いで高校生は「思うような材料もないし、割合に高価になるので作りたくない」としている。

③ あなたが家で、学校の教材や好きなものを製作していると家の人はどのような態度を示しますか（見ているのが多いと思いますか）

1. 喜んでいる
2. 驚く
3. 無関心
4. あまり喜ばない
5. わからない

| 対象 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 無答 |
|------|------|------|------|------|------|-----|
| 中学生 | 23.9 | 17.8 | 21.2 | 5.4 | 30.2 | 1.5 |
| 高校生 | 31.9 | 11.8 | 19.0 | 4.4 | 27.5 | 5.4 |
| 中学教師 | 50.7 | 5.3 | 8.0 | 22.7 | 13.3 | 0 |
| 高校教師 | 51.3 | 2.6 | 17.1 | 6.6 | 21.1 | 1.3 |

「製作をしていると家の人はどんな態度を示すか」では、生徒は「わからない」が相当あるが、一方「喜んでいる」が中学生24%、高校生32%と多い。

教師も生徒と同じように「喜んでいる」が一番多い。中学教師の「あまり喜ばない」23％は生徒より多い。これは家人が入学受験科目の有無に結びつけて考えての結果からとも推測できる。

(2) 手づくり品

① あなたは、自分で作ったものや家族が作ったもの、すなわち、手づくりのものを使ったり着用したりしたいと思うことが多いですか（思っているでしょうか）

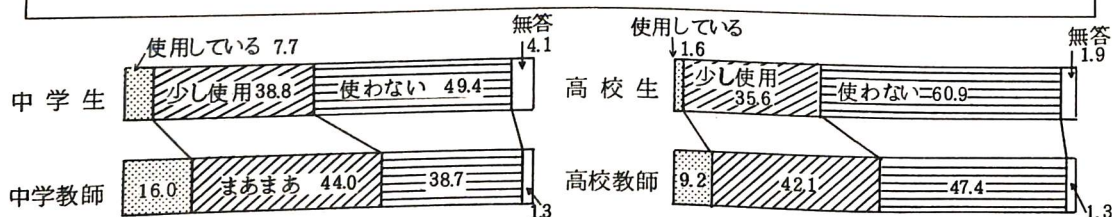
1. はい 2. いいえ 3. （わからない）



「手づくりのものを使ったり着用したいと思うか」では、中学生の「はい」48％と多いが、高校生は「いいえ」が50％と多く、逆の結果である。高校生は既製品を多く見る機会があり、流行にも関心が強くなるからではないだろうか。教師の「いいえ」が生徒より少なく差がある。

② 小学校時代から今まで、学校で作った作品で愛着をもって使用したのがありますか（使用していると思われますか）

1. よく使用している 2. 2,3点は気に入ってよく使用している（まあまあである）
3. ほとんど使わない



「学校で作った作品を愛着をもって使用したか」では生徒、教師ともに同じ傾向で「ほとんど使わない」が多い。また中学生より高校生の方が使っていない。着用するものとしらないものは、製作品の種類により相当違ってくると思われるが作った物は着用させ、その喜びを味わわせるようにしたいものである。

4. 被服製作の技術面について

生徒用 あなたは学校で作品を製作しているうちに、少しでも上達したと思いますか

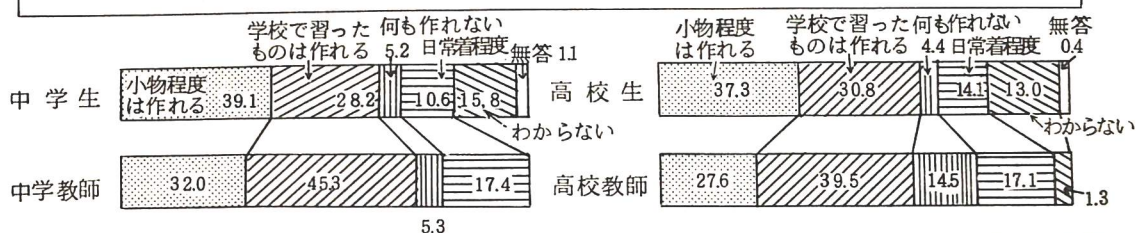
1. はい 2. どちらともいえない 3. いいえ 4. わからない

| 生徒 | 回答 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|-----|----|------|------|-----|------|
| 中学生 | | 67.3 | 15.6 | 4.7 | 12.4 |
| 高校生 | | 54.9 | 26.4 | 5.1 | 13.6 |

「作品を製作することによって上達したか」では「はい」がもっとも多く、中学生67%,高校生55%である。手と頭を使うことによって明らかに上達のあとがみられると生徒は評価している。

① 現在、あなたの被服製作技術はどの程度だと思いますか

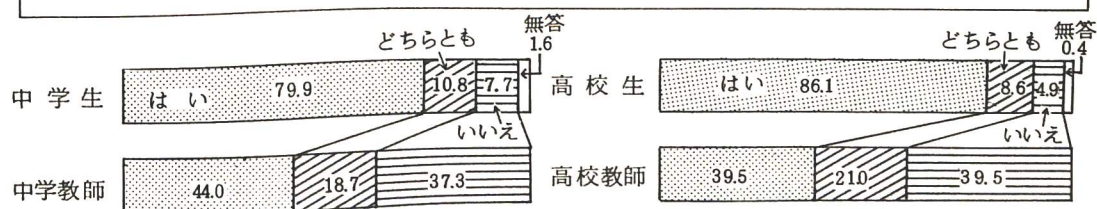
- 必要にせまられた時は、小物程度は作れると思う
- 必要にせまられれば、学校で習ったものは作れると思う
- いざという時でも何も作れないで、買うか、人に頼ると思う
- 簡単な日常着程度なら作れる
- 自分ではわからない



被服製作技術の程度を生徒は「必要にせまられた時は、小物程度は作れると思う」が一番多い。教師は「必要にせまられれば、学校で習ったものは作れると思う」が多い。中学教師は学校で習ったものは作れると思う45%と多いが、中学生は28%と少なく教師と生徒の差が大きい。

② あなたは日常、ある程度縫い物ができないと困ると思いますか（困ると思っているでしょうか）

- はい
- どちらともいえない（わからない）
- いいえ



「日常ある程度縫い物ができないと困ると思うか」では、生徒は80%以上「はい」と答えているが教師は半数の40%である。教師の考えている以上に製作に関心を持ち、縫い物ができないと困ると思っていることがわかる。ある程度、縫い物ができるように生徒の興味と関心を高める被服指導の工夫が課題であろう。

5. 被服製作学習における生徒から教師への要望

生徒用 今年の被服製作学習で、先生に望むことがあれば一つだけ書いて下さい。

これは先生に対する要望を自由に書かせたものである。おもな意見を原文のまま載せる。

(1) 中学生が望むこと

学習指導や学習内容に関するもの

- わかりやすく説明してほしい。
- 説明は早くわかりやすくしてほしい。
- ゆっくり説明してほしい。
- もっと簡単なものにしてほしい。
- 自分の好きなものを作らせてほしい。
- よく見えるように説明してほしい。板書で説明するだけでは理解できない。
- わかりやすく指導してほしい。
- 詳しく、順序よく教えてほしい。

学習時間に関するもの

- 製作時間をもっととってほしい。
- もっと時間をかけてほしい。
- もっとゆっくりやってほしい。
- 説明が長すぎて作業時間が短かすぎる。
- 早く進まないでほしい。
- 速い人にあわせないで中間の人にあわせてほしい。

用具に関するもの

- ミシンを待つ時間を少なくする工夫を
- ミシンの台数をふやしてほしい。
- ミシンの取扱いをくわしく説明してほしい。
- 電子ミシンがもう少しあるといい。

その他

- 口うるさく言わないでほしい。
- 家に教材を持ってかえらせてほしい。
- 下手な人でも見すてないでほしい。

(2) 高校生が望むこと

学習指導や学習内容に関するもの

- もっとわかりやすくしてほしい。
- もっと要領よく説明してほしい。
- わかりやすく説明してほしい。
- もっとくわしく教えてほしい。
- 自由なデザインで作らせてほしい。
- ていねいにわかりやすくおしえてほしい。
- 1人ひとりていねいにおしえてほしい。
- 説明をもう少しゆっくりしてもらいたい（一度にたくさんしないほしい）
- 作るのを1～2点減らしてほしい。

学習時間に関するもの

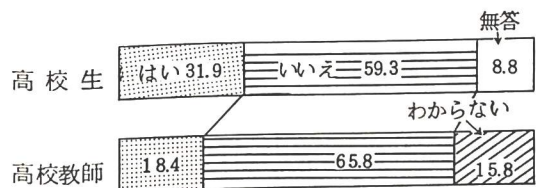
- もう少しゆっくり進んでほしい。
- 製作の時間を長くしてほしい、進み方が早すぎてついていけない。
- もっとゆっくり時間をかけてほしい。
- ペースをおとしてほしい。
- 皆いっしょに進まれるようにしてほしい。

その他

- あまり叱らないで、たまにはほめてほしい。
- 電動ミシンを入れてほしい。

6. 中学校と高等学校における被服製作学習の重複について

高校生と高校教師用 中学校との重複が多いため、新鮮味がなくなってつまらないと思いませんか（思っているのが多いと思いますか） 1. はい 2. いいえ（3. わからない）

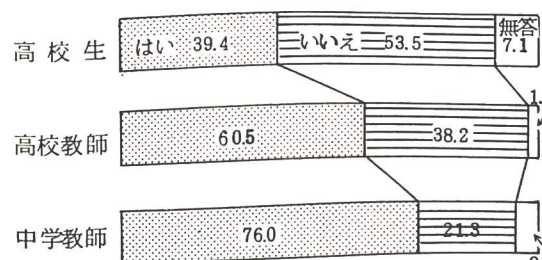


「中学校との重複が多いため、つまらなかったか」では「いいえ」が高校生 60%, 教師 66% と高率である。ブラウスという教材でも中学校で作る場合と高校で作る場合では、発展応用が加わるなど、題材

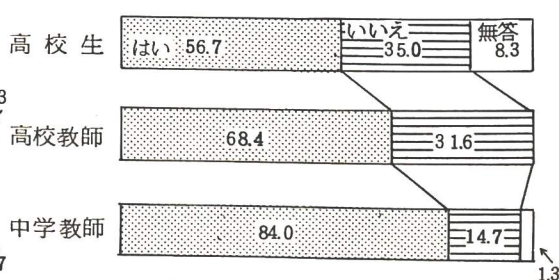
の扱い方によっては学習の深まりが出てくるためと思われる。

- ① 繰り返して練習するという意味では、中学校と同じような内容でもよいと思いませんか（中学校と高校と重複が多くても良いと思いませんか） 1. はい 2. いいえ
- ② 教える先生が違ったり、材料や内容に広がりや深まりがでてくれば、重複してもよいと思いませんか 1. はい 2. いいえ

<繰り返し練習>



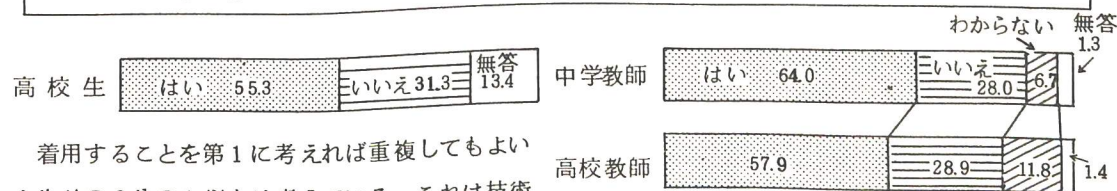
<内容の深まりや広がり>



「繰り返して練習するという意味では同じ内容でもよいか」では、高校生は「いいえ」54%と多いが教師は「はい」が6割を占める。また「材料や内容に広がりや深まりがあれば重複してもよいか」では、生徒も教師も「はい」が多い。発達段階に合った指導内容であれば重複してもよいことが伺える。

高校生用 着用することを第一に考えれば、重複していても良いと思いませんか 1. はい 2. いいえ

教師用 生徒は着用することを第1に考えて製作していると思いますか 1. はい 2. いいえ 3. わからない



着用することを第1に考えれば重複してもよいと生徒の2分の1以上は考えている。これは技術的に上達するからと思われる。生徒は「着用することを第1に考えて製作していると思うか」では、教師の「はい」が58%以上の高い割合を示しているが、前の調査にあるように生徒は着用しているものは、

少なく、生徒と教師のずれが見られる。

高校生用 高校〔家庭一般〕の被服製作と中学校の被服製作の相違点があったら、1つだけ書いて下さい。

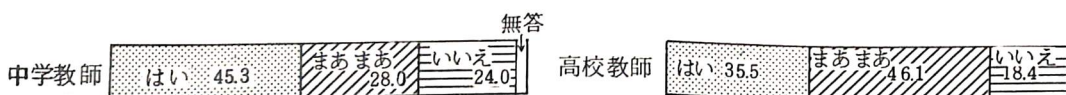
これは相違点を自由に書かせたものである。おもなものを原文のまま載せる。

- 内容的にも技術的にもむずかしい。
- 実用的なものがつくれる。
- 製図からになった。
- 補正などにも細かい注意を払う。
- 細かいところまでやるのでむずかしい。
- 専門用語が教えてもらえる。
- くわしく教えてくれない。
- 和裁がある。
- 裏地をつけたこと。
- きちんとていねいである。
- 中学の方が多く製作した。
- 作業の能率度が違う。
- 進み方が早い。
- 時間数がちがうということ。
- 学校で全部やったが家への持ち帰り宿題が多い。
- 宿題が多い。

7. 中学・高校教師の被服製作指導内容に対する関心度について

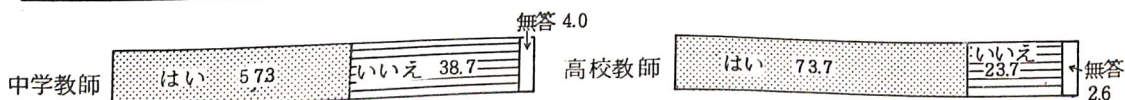
① 中学校（高校）の指導内容に関心を持っている方だと思いますか

1. はい 2. まあまあである 3. いいえ



指導内容の関心度をみると「はい」が中学教師45％、高校教師36％で中学教師の関心度が高い。「いいえ」が20％ほどある。

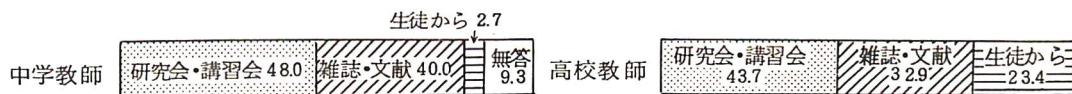
② 中学校（高校）の指導要領やその解説書を見たことがありますか 1. はい 2. いいえ



「指導要領や解説書を見たことがあるか」では、高校教師の「はい」が74％と高いが、中学教師は57％で約半数である。関心はあるけれど実際見ていない教師が多い。

③ 中学校（高校）の指導内容についての情報は主として何に頼っておられますか

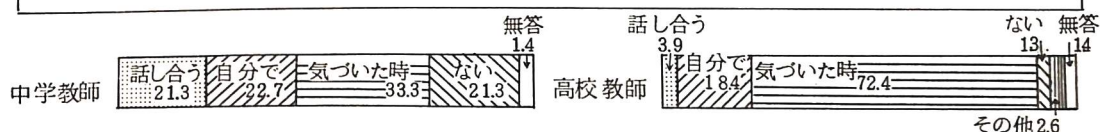
1. 研究会、講習会で得た知識や資料 2. 家庭科関係の雑誌や文献 3. 自分の担当の生徒から 4. その他



指導内容の情報のよりどころは「研究会、講習会で得た知識や資料」が一番多い。これは研究会や講習会の開催を望んでいると見てよいと思う。次いで「家庭科関係の雑誌や文献」である。高校教師は「自分の担当の生徒から」が23%ある。

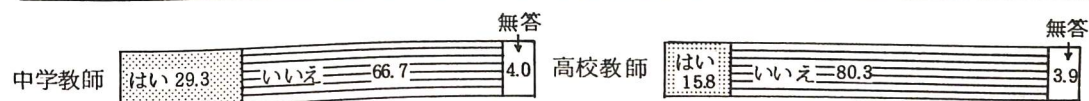
⑤ 中学校（高校）の指導内容について学校で話し合うことがありますか

1. 全員で話し合いをして中学校の指導内容をまとめている。 2. 話し合うことはないが自分で検討してある。 3. 日常の会話の中で気がついた時に話し合ったり、必要に応じて生徒に聞いたりして、授業に役立っている程度である。 4. 話し合うこともないし、無関心である。



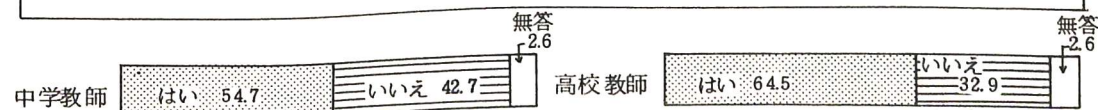
「中学校（高校）の指導内容について学校で話し合うか」では「日常の会話の中で気がついたときに話し合ったり、必要に応じて生徒に聞いたりして授業に役立っている程度である」が多く、特に高校教師は72%と多い。次いで「話し合うことはないが、自分で検討してある」である。教育課程が改訂になったので今後ますます多様な履習をしてくる中学生が高校に入学してくることを考え、指導にあたらねばならないと思う。

⑥ 被服製作教育は種々の技法があるので中学校（高校）の指導内容を理解していなくても、十分指導できるものと思いますか 1. はい 2. いいえ



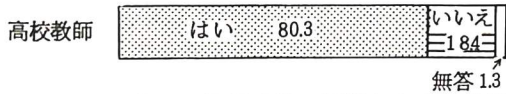
「被服製作教育は種々の技法があるので中学校（高校）の指導内容を理解していなくても指導できるか」では「はい」は少なく「いいえ」が多い。しかも高校教師の方が高率を示している。お互に指導内容を理解し合うことがぜひ必要であると思われる。

⑦ 中学校（高校）の被服製作学習の内容を十分理解しなければ、指導できないと思いますか 1. はい 2. いいえ



「中学校（高校）の被服製作学習の内容を十分理解しなければ指導できないと思うか」では中学教師は「はい」「いいえ」が半々であるが高校教師の「はい」は65%である。

⑧ 中学校間に格差があるため、中学校の指導内容を理解していても、役に立たず、結局、生徒の実態にあわせて指導しなければならないことが多いですか 1 はい 2 いいえ



高校教師 「中学校の指導内容を理解していても、生徒の実態に合わせて指導しなければならないか」では、「はい」が80%と多い。指導内容を理解した上で生徒の実態に合わせて効果的な指導をすることが大切であると認識されている。

8 中学教師から高校教師へおよび高校教師から中学教師への要望

これは要望を1つだけ自由に記入してもらったものである。おもなものを原文のまま載せる。

◆ 中学教師から高校教師へ望むこと

(1) 学習指導法や指導内容の工夫

- ・ 中学校では基礎的技能の習熟、定着が十分でないと思う。高校ではその事情をくみとってさらに習熟、発展を図るよう興味を持たせながら、親切な指導をしてほしい。
- ・ 小、中学生の能力・実態を把握した上で、無理のないように指導してほしい。高校生は大学進学のこともある、被服製作には手をぬき、家人や他人にゆだねてしまうことがあると聞く。
- ・ 小・中・高の関連内容を十分理解されて指導計画を考えるべきと思うが、生徒の実態を把握され重複してもやむを得ない面があると思う。
- ・ 中学での被服製作学習では作品完成に重点がおかれ、材料の性質等に関する知識が不足していると思うので 高校での指導をよろしく願います。
- ・ 内容が浅く、上すべりで生活の中に定着するまでに至っていない。深くじっくりやらせてほしい。
- ・ 先入観念で被服を敬遠する生徒が多くある。（被服と勉強の両立は難しいと思っている）負担にならず楽しみながら学習する手立てを講じられたらよいと思う。

(2) 基礎からやってほしい

- ・ 「やったことがある」という程度で「身についた」というところまでいっていない。家庭での反復もゼロである。私達の時代の小学校程度の技術と割り切って基礎から教えてほしい。
- ・ 高校の家庭科に進む生徒の一部には、理解力の劣るものがあるので、基礎から教え励ましてほしい。
- ・ ほとんど出来ない生徒が多いので、大人扱いにしないで初歩からていねいに実技指導してほしい。

(3) 小・中・高校の連絡会、その他

- ・ もっと中・高校の連絡を密にして、指導計画を立て一貫した教育にすることが大切だと思う。
- ・ 中学校の小規模校では、職員組織の関係で免許外で家庭科担当をしている教師が多い。免許外担任教師に対して講習会を開いて研修の機会を作してほしい。
- ・ 時間が削減され、基本的なことしか指導できない情勢になってきたことを十分承知してほしい。
- ・ 入試教科が重視されることが多く、技術の反復練習が軽んじられる気風が職員、生徒間にひそんでいる。

◆ 高校教師から中学教師へ望むこと

(1) 基礎的技能に関するもの

- 基礎的なことをしっかりおさえてほしい。（並ぬいミシンの直線縫い，針，糸の関係）
- ボタンホール，スナップつけなど基本的なものはしっかりおさえてほしい。
- 運針が正しくできるようにしてほしい。
- ミシンで縫うことはできても，糸通しのできない生徒がほとんどである。糸通しの方法だけでも完全にマスターさせてほしい。
- 手縫い，ミシン縫いの基礎技術練習を十分させ，確実に身につけさせてほしい。
- 基礎的な指導は必ず学校で，教師の目の前でやらせてほしい。
- ミシンの扱い方を徹底してやらせてほしい。
- ミシンやアイロンの使い方の基礎的な知識や実技力をつけてほしい。

(2) 指導法に関するもの

- 作る，着るという新鮮な感動を育てるように指導していただきたい。
- ていねいに作って着用する，役立つものが仕上がるということをしっかり身につけさせたい。
- 数を多く製作するのではなく，基礎技術を習得させた方がよいと思う。
- 作り上げる喜びを心からもたせていただきたい。
- 手作りの楽しさを生徒に味わわせてもらいたい。

(3) その他

- お互の交換の機会がもっとあったらと思う。

Ⅳ 調査結果の要約

この調査は，新教育課程の実施にともない，原点にかえって，今後の被服製作指導のあり方を探り，被服製作学習の実態を把握することを意図して実施し，中学校・高等学校の生徒と教師の意識をまとめたものである。

- (1) 基礎的技能については，手縫い，ミシン縫いとも定着が悪く，生徒，教師ともにしっかり身につけなければならないことを意識している。時期としては，中学校では小学校時代に，高校では中学時代に定着させたいとしている。基礎技術は，小・中学校で習得したものとして進めているが，生徒の個人差も相当ある。手指の器用さは，4才頃から発達しはじめ，18才頃まで上昇を続けると言われていることからすれば，高校生までにしっかり定着させたいものである。
- (2) 被服製作学習についての満足度は，中学生72%，高校生60%と高い。生徒は，作り上げる喜びは大きく，製作することは好きだが時間的に余裕がないというのが実状である。製作学習を通して，技能はもちろん，自制心，精神力，協力心，努力心なども身につけたとしているが，教師の評価は生徒より厳しい。製作学習で一番理解できない部分と一番失敗したところは，生徒，教師ともに「縫製」が圧倒的に多かった。標本類，視聴覚教材を含めた資料を充実させ指導法の工夫が必要であると考えられる。学習の進度は，生徒の「速い」が多いのに対して，教師は「まあまあである」と思っているが多い。生徒側に立って生徒の進み方をもう少し考えてみる必要がある。ミシンの調整に時間をかけている生徒

が多く見られ、ミシンやアイロン不足もその理由として考えられる。

(3) 被服製作意欲については、「作ってみたい」は中学生79%、高校生81%と多い。生徒は、作りたいが時間的余裕がないことをあげている。生徒は製作意欲を相当もっているから、技術面の能力を伸ばすことによって、一層興味、関心が高まり、日常の衣生活経営に生かされると思われる。学校で今まで作った作品は、あまり使用されていなく、教師と生徒の意識のずれがみられる。

(4) 被服製作技術面については、生徒はある程度縫い物ができないと困ると80%は思っており、教師の40%をはるかに上まわっている。現在の生徒の被服製作技術は「必要にせまれた時、小物程度は作れる」が一番多い。教師は「学校で習ったものは作れる」が多かったが学校で作った一度だけの経験では無理かもしれない。

(5) 被服製作学習で、先生に望むことは「わかりやすく説明してほしい」「ゆっくり説明してほしい」「自由なデザインにしてほしい」「製作時間をもっと多くしてほしい」「もう少しゆっくり進んでほしい」などが多かった。

(6) 中学と高校における被服製作学習の重複については、学習する教材や内容に深まりがあれば、重複してもよいと考えられている。

(7) 中学、高校教師の被服製作指導内容の理解については、指導内容に関心はあるが、学校で話しあうことは少ない。中学教師は高校の、高校教師は中学の被服製作学習の内容をあまり理解していない。積極的に指導要領や解説書を学習することが望まれる。特に高校教師は、今までとちがって多様な履修をしてくる生徒が入ってくることを留意すべきである。

(8) 中学教師から高校教師、高校教師から中学教師への要望では中学教師からは、「中学校では基礎的技能の習熟、定着が十分でないので、基礎からていねいに教えてもらいたい」「小、中、高の関連内容を理解した上で、生徒の実態を十分把握し指導してほしい」「時間数が削減されたことを十分承知してほしい」などが多かった。

高校教師からは、「基礎的な技能をしっかりとやらせてほしい」「数多く製作するより、基礎的技術を習得させた方がよい」「お互いの交換の機会があったらよいと思う」などが多かった。

V お わ り に

生徒達の被服製作についての最大の関心事は「きれいに着用できる物が作れるようになりたい」ということであるのに、それに対応する技術がとまなわないというのが現状である。限られた時間内で「より美しく縫製させる」ためには、学習目標を明確に分析し、綿密な指導計画を立案し、授業を展開していくことも必要であろう。生徒をよりよく導くためには、教師の熱意と根気、創意工夫によるところが大きくいのではないだろうか。被服製作学習を通して、作る喜びを味わわせるとともに将来、基礎技術を応用、駆使して、実践できることを目指して、更に豊かな衣生活経営にも目を向けられるようにしたいものである。

付 調査用紙

被服製作学習についての調査

新潟県立教育センター

この調査は、中学校、高等学校における被服教育の問題点を見つけ出し、これからの被服教育のあり方を検討する資料にするものです。正直に気軽に答えて下さい。

生徒用

被服製作学習について

(1) 被服製作学習に満足しましたか

1. 面白く楽しかった 2. 役に立って良かった 3. 満足できなかった

(2) ミシンのかけ方、直線・曲線の縫い方、手縫いの技法など、縫い方の基本を身につけることができましたか

1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない

(3) 被服材料の性質、からだにあった型紙の選び方、目的にあったデザイン、早く丈夫に仕上げる工夫など、理論に基づいた製作の方法がわかりましたか

1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない

(4) 一定の時間内で考案したり、製作したりする実践力や完成のために努力する精神力が身につきましたか

1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない

(5) 集団の中で実習することから、協力しあう心や他人から学ぶ気持、自己を反省する気持が身につきましたか

1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない

(6) 授業中、ミシンの調整をしているうちに時間がなくなって困ったことがありますか

1. いつも 2. ときどき 3. たまに 4. 困ったことはない

(7) 学校の用具や備品が不十分で能率があがらず、困ったことがありますか

1. いつも 2. ときどき 3. たまに 4. 困ったことはない

(8) ミシンやアイロンかけの順番、先生に見てもらふ順番がなくて困ったことがありますか

1. いつも 2. ときどき 3. たまに 4. 困ったことはない

(9) あなたの作品は、手縫いの技術が上達していればもっとよく出来上ったと思いますか

1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない

(10) あなたの作品は、ミシンの操作やミシン縫いの技術が上達していればもっとよく出来上ったと思いますか

1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない

(11) あなたの製作に当たって、一番失敗したと思ったところはどこですか

1. 材料の選択 2. デザインの決定 3. 型紙の補正 4. 裁断 5. 縫製 6. その他

(12) 先生の説明や指導で理解できない部分がありましたか

1. はい 2. いいえ

(13) 先生の説明や指導で一番理解できない部分（わかりにくい部分）はどこでしたか

1. 材料の選択 2. デザインの決定 3. 型紙の補正 4. 裁断 5. 縫製 6. その他

(14) 授業の進み方が早くて、ついていくのが大変でしたか

1. はい 2. いいえ

(15) 提出期限がせまって、苦しい時がありましたか

1. はい 2. いいえ

(16) 授業時間外にもっと学校でやりたいと思いましたか

1. はい 2. いいえ

(17) 授業のとき先生が2人位ついてほしいと思いましたか

1. はい 2. いいえ

被服製作技能の習熟について

(18) あなたは、縫い針がらくに上手に使えましたか

1. 上手に使えた 2. 上手に使えなかった 3. まあまあである

(19) あなたは、しつけをらくに上手にすることができましたか

1. 上手にできた 2. 上手にできなかった 3. まあまあである

(20) あなたは、ミシンで直線縫いや曲線縫いが上手にできましたか

1. 上手にできた 2. 上手にできなかった 3. まあまあである

(21) あなたは、ボタンつけや穴かがりが上手にできましたか

1. 上手にできた 2. 上手にできなかった 3. まあまあである

(22) あなたは、中学校3年生（高校）で手縫い（縫い針の使い方、しつけのかけ方、まつり縫いなど）の練習が必要だと思いますか

1. 必要である 2. 必要でない 3. どちらともいえない

(23) あなたは、中学校（高校）でミシン縫いの基礎技術（直線・曲線縫いなど）をしっかりと身につけなければならないと思いますか

1. 思う 2. 思わない 3. どちらともいえない

(24) もし手縫いの基礎の習熟の時期を重点的に決めるとするならば、あなたは、いつ頃が適当だと思いますか

1. 小学校時代 2. 中学校時代 3. 高校時代 4. 高校卒業後 5. その他（ ）

(25) ミシン縫いの基礎を練習する時期としては、いつ頃がよいと思いますか

1. 小学校時代 2. 中学校時代 3. 高校時代 4. 高校卒業後

(26) あなたは、ミシン縫いや、手縫いの基礎が身についたのはいつ頃だと思いますか

1. 小学校時代に家庭で 2. 小学校の授業で 3. 中学校一年の頃 4. 中学校二年の頃
5. 中学校三年になってから 6. 高校に入ってから 7. わからない 8. まだ身についていると思わない

(27) あなたは、ミシン縫いや手縫いの基礎技術をどんな方法で習得していったら良いと思いますか

1. 学校の教材製作の過程で練習できるので特に時間をとって練習する必要はない
2. 目標を決めて休み時間や放課後自由に練習するとよい
3. 目標を決めて夏休みや冬休みの宿題として練習するとよい
4. 授業時間内に特別に時間をとって練習するとよい
5. その他〔

〕

(28) あなたは学校で作品を製作しているうちに、少しでも上達したと思いますか

1. はい
2. いいえ
3. どちらともいえない
4. わからない

(29) あなたは学校で作品を製作したことによって、今後自分の衣服や家族の衣服を作りたいと思いますか

1. いろいろ作ってみたい
2. たまには作りたい
3. もう作りたくない

(30) いま自分で何かを作るとしたら、どんな障害がありますか

1. 家のミシンや用具が使いやすくない
2. 技術が下手なので作りたくない
3. 思うような材料もないし、割合に高価になるので作りたくない
4. 時間の余裕がない
5. 被服製作は自分の性格にあわない
6. その他〔

〕

(31) 現在、あなたの被服製作技術はどの程度だと思いますか

1. 必要にせまられた時は、小物程度は作れると思う
2. 必要にせまられれば、学校で習ったものは作れると思う
3. いざという時でも何も作れないで、買うか、人に頼ると思う
4. 簡単な日常着程度なら作れる
5. 自分ではわからない

そ の 他

(32) あなたが家で、学校の教材や好きなものを製作していると家の人はどのような態度を示しますか

1. 喜んでいる
2. 驚く
3. 無関心
4. あまり喜ばない
5. わからない

(33) あなたは日常、ある程度縫い物ができないと困ると思いますか

1. はい
2. いいえ
3. どちらともいえない

(34) あなたは、自分で作ったものや家族が作ったもの、すなわち、手づくりのものを使ったり着用したりしたいと思うことが多いですか

1. はい
2. いいえ

(35) 小学校時代から今まで、学校で作った作品で愛着をもって使用したのがありますか

1. 全部よく使用している
2. 2,3点は気に入ってよく使用している
3. ほとんど使わない

- (36) 今年の被服製作の学習で、先生に望むことがあれば1つだけ書いて下さい

…………… 中学生は以下の設問に答える必要はありません ……………

中学校と高校における被服製作学習の重複について

- (37) 中学校との重複が多いため、新鮮味がなくてつまらないと思いましたか

1. はい 2. いいえ

- (38) 繰り返して練習するという意味では、中学校と同じような内容でもよいと思いましたか

1. はい 2. いいえ

- (39) 教える先生が違ったり、材料や内容に広がりや深まりがでてくれば、重複していてもよいと思いましたか

1. はい 2. いいえ

- (40) 着用することを第1に考えれば、重複していても良いと思いましたか

1. はい 2. いいえ

- (41) 高校（一般家庭）の被服製作と中学校の被服製作の相違点があったら、1つだけ書いて下さい

教師用

- (1) 教職（家庭科担当）経験年数（S 56.3.31 現在）
 1. 5年未満 2. 5年以上10年未満 3. 10年以上20年未満 4. 20年以上
- (2) 年齢（S 56.3.31 現在）
 1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60歳以上
- (3) 貴校家庭科担当教諭人数（講師等は含まない）
 1. 1人 2. 2人 3. 3～5人 4. 6人以上
- (4) 勤務校所在地
 1. 上越 2. 中越 3. 下越
- (5) 現在の家庭科担当科目・時間数 時間数は〔 〕の中に合計した数を記入して下さい
 高校教師 1. 家庭一般〔 〕 2. その他〔 〕 中学校教師 1. 家庭科〔 〕 2. その他〔 〕
- (6) 現在の被服製作教育に満足していますか
 1. はい 2. いいえ 3. まあまあである
- (7) ミシンの扱い方、直線・曲線の縫い方、縫い糸・縫い針の選択、手縫の各技法など、縫い方の基本が定着したと思いますか
 1. はい 2. いいえ 3. まあまあである
- (8) 被服材料の性質、体型の特徴や着用目的にあったデザイン、早く丈夫に仕上げる工夫など、理論に基づいた製作の方法が定着したと思いますか
 1. はい 2. いいえ 3. まあまあである
- (9) 一定の時間内で考案・製作・着装などの学習活動をさせることによって、実践する力や努力する心を養うことができたと思いますか
 1. はい 2. いいえ 3. まあまあである
- (10) 創意工夫・応用発展力を養成することができたと思いますか
 1. はい 2. いいえ 3. まあまあである
- (11) 集団の中で実習することから、協力しあう心や他人から学ぶ態度、自己を反省する態度を身につけさせることができたと思いますか
 1. はい 2. いいえ 3. まあまあである
- (12) 授業中、ミシンの調整をしているうちに時間がたりなくなってしまう生徒を見ることがありますか
 1. いつも 2. ときどき 3. たまに 4. 見かけることはない
- (13) 学校の用具や備品が不十分で能率があがらず困っている生徒を見ることがありますか
 1. いつも 2. ときどき 3. たまに 4. 見ることはない
- (14) ミシンやアイロンかけの順番、先生に見てもらふ順番を待っている生徒が多く見られますか
 1. いつも 2. ときどき 3. たまに 4. 見ることはない
- (15) 手縫いの基礎技術の上達とミシン縫いの基礎技術の上達のいずれが先決だと思いますか
 1. 手縫い 2. ミシン縫い 3. どちらともいえない

- (16) 生徒が製作に当たって、一番失敗したと感じているのは、次のうちどれだと推定されますか
1. 材料の選択 2. デザインの決定 3. 型紙の補正 4. 裁断 5. 縫製 6. その他
- (17) 生徒がなかなか理解してくれない部分があって困りましたか
1. はい 2. いいえ 3. まあまあである
- (18) 指導に一番苦労したのは、次のうちどれですか
1. 材料の選択 2. デザインの決定 3. 型紙の補正 4. 裁断 5. 縫製 6. その他
- (19) 生徒にとって、授業の進み方が早かったのではないかと推察されますか
1. はい 2. いいえ 3. まあまあである
- (20) 授業時間以外でも学校でやらせましたか
1. いつでも自由に 2. 日時を決めて 3. ほとんどやらせない
- (21) 生徒は、縫い針がらくに上手に使えたと思いますか
1. 80%以上の生徒が上手に使えたと思う 2. 40～60%程度の生徒が上手に使えた 3. 上手に使えたのは40%以下である 4. その他〔 〕
- (22) 生徒は、しつけをらくに上手にすることができたでしょうか
1. 80%以上の生徒が上手にできた 2. 40～60%程度の生徒が上手にできた 3. 上手にできたのは40%以下である 4. その他〔 〕
- (23) 生徒は、ミシンで直線縫いや曲線縫いが上手にできましたか
1. 80%程度の生徒がよくできた 2. 40～60%程度の生徒がよくできた 3. よくできたのは40%以下である 4. その他〔 〕
- (24) 生徒は、ボタンつけや穴かがりなどが上手にできたでしょうか
1. 80%程度の生徒はよくできた 2. 40～60%程度の生徒はよくできた 3. よくできたのは40%以下である 4. その他〔 〕
- (25) 高校で、縫い針の使い方、しつけのかけ方、まつり縫いなどの基礎練習をさせる必要がありましたか。（中学校教師は、中学校ではどうかを答えて下さい。（26）番も同様に答えて下さい）
1. はい 2. いいえ
- (26) 高校で、ミシンの取り扱い方、直線・曲線の縫い方など、ミシン縫いの基礎練習をさせましたか
1. はい 2. いいえ
- (27) もし、手縫いの基礎技能習熟の時期を重点的に決めるとするならば、いつ頃が適当だと思いますか
1. 小学校時代 2. 中学校時代 3. 高校時代 4. 高校卒業後 5. その他〔 〕
- (28) ミシン縫いの基礎を練習する時期としては、いつ頃がよいと思いますか
1. 小学校時代 2. 中学校時代 3. 高校時代 4. 高校卒業後 5. その他〔 〕
- (29) 先生御自身は、手縫いやミシン縫いの基礎を身につけたのは、いつ頃だと思いますか
1. 小学校時代に家庭で 2. 小学校の授業で 3. 中学校時代に家庭で 4. 中学校の授業で 5. 高校時代に 6. 高校卒業後 7. 女学校・専門学校時代に 8. その他（ ）

(30) 先生は、ミシン縫いや手縫いの基礎技術をどんな方法で習得させていったら良いと思いますか

1. 学校の教材製作の過程で練習できるので特に時間をとって練習させる必要はない
2. 目標を決めて休み時間や放課後自由に練習させるとよい
3. 目標を決めて夏休みや冬休みの宿題として練習させるとよい
4. 授業時間内に特別に時間をとって練習させるとよい
5. その他〔 〕

(31) 生徒は、学校で作品を製作したことによって、自分の衣服や家族の衣服を作りたいと思っていると推察されますか

1. いろいろ作りたいと思っている
2. たまには作りたいと思っている
3. もう作りたくないと思っている

(32) 生徒が今、家で何かを作るとすれば、どんな障害が一番多いと思いますか

1. 家のミシンや用具が使いやすくない
2. 技術が下手なので作りたくない
3. 思うような材料もないし、割合に高価になるので作りたくない
4. 時間の余ゆうがない
5. 被服製作は自分の性格にあわない
6. その他〔 〕

(33) 現在、生徒の被服製作技術は、一般にどの程度だと思いますか

1. 必要にせまられた時は、小物程度は作れると思う
2. 必要にせまられれば、学校で習ったものは作れると思う
3. いざという時でも何も作れないで、買うか人に頼ると思う
4. 簡単な日常着程度なら作れると思う
5. その他〔 〕

(34) 生徒が家で学校の教材や好きなものを製作していると、その家族はどのような態度で見ているのが多いと思いますか

1. 喜んで
2. 驚く
3. 無関心
4. あまり喜ばない
5. わからない

(35) 多くの生徒は日常、ある程度縫い物ができないと困っているでしょうか

1. はい
2. いいえ
3. わからない

(36) 多くの生徒は、自分で作ったものや家族が作ったもの、すなわち手づくりのものを使ったり着用したりしたいと思っているでしょうか

1. はい
2. いいえ
3. わからない

(37) 多くの生徒は学校で作った作品を愛着をもって使用していると思われますか

1. よく使用している
2. あまり使用していない
3. まあまあである

(38)～(44)までの中学校（高校）は、中学校教師は高校の……高校教師は中学校の……と読んで下さい

(38) 被服製作教育は、種々の技法があるので中学校（高校）の指導内容を理解していなくても、十分指導できるものと思いますか

1. はい
2. いいえ

参 考 文 献

- 小学校学習指導要領の解説と展開 家庭科編 昭和53年 教育出版
- 小学校学習指導要領の展開 家庭科編 昭和52年 森 要七他 2人 明治図書
- 中学校学習指導要領の展開 技術・家庭科編 昭和52年 馬場信雄, 小笠原ゆり 明治図書
- 中学校教育課程講座 技術・家庭 昭和52年 鈴木寿雄, 小笠原ゆり ぎょうせい
- 高等学校学習指導要領解説 家庭編 昭和54年 文部省
- 高等学校学習指導要領の展開 家庭一般編 昭和53年 小笠原ゆり 明治図書
- 家庭科教育法 昭和55年 山本キク 家政教育社
- 小・中・高校の関連における被服に関する領域の効果的な指導法, 昭和50年度 全国家庭科教育協会
- 小・中・高校の被服領域における技術指導の検討（被服の縫製指導について） 昭和52年度 全国家庭科教育協会
- 被服及び食物に関する基礎技能習得の現状とその問題点 昭和56年 福岡県教育センター
- 家庭科実験, 実習の題材に関する調査研究 昭和51年 山梨県教育センター
- 家庭一般における実技指導に関する研究（被服製作, 実習の個人差に応じた指導について） 昭和55年 山梨県教育センター
- 被服教育特集 家庭科 昭和57年 2, 3月号 全国家庭科教育協会
- 小・中・高校における被服教育の実態と成果（技術面を中心として） 昭和51年 日本家庭科教育学会誌18号
- 教育調査法 辻 功 昭和54年 誠文堂新光社